

## 第3回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 平成23年3月28日（月）午後2時半～午後4時

開催場所 彦根商工会議所 4階大ホール

出席者 別紙参照

### 1 開会

- ・役員交替、人事異動に伴う後任の委員の紹介（私鉄滋賀県協議会堀口氏、彦根署交通課甲斐氏）
- ・協議会規約第8条第3項により会議が成立していることの確認

### 2 会長あいさつ

- ・まずは、震災で亡くなられた方にはご冥福をお祈りします。
- ・東日本大震災で、滋賀県が支援する福島県において、先日市長が現地を訪問され、被災者は想像を絶するような生活をしておられるということを聞いている。またそのなかで、郡山の方でバスが出ており、混雑していると思ったが、車で移動されている方が多く意外と空いていたが、やはりそのバスには高齢者の方がたくさん乗車されていたということです。そういったことを、含めながら今後の公共交通について、様々なことを考えていかなければならないと感じています。

### 3 議事

#### (1) 第1号議案 平成22年度収支予算の補正について

- ・事務局より第1号議案について、議案書に基づき説明がなされ、議長より挙手による承認を求めた結果、異議なく承認された。

#### (2) 第2号議案 地域公共交通活性化・再生総合事業計画の変更について

- ・事務局より第2号議案について、議案書に基づき説明がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

##### ● 近藤副会長（滋賀県立大学）

- ・会議全体の流れについて、平成22年度の事業報告はないのか。次の議案では平成23年度の事業計画とあるが、現段階でわかることだけでも今回報告があれば次年度の事業計画の検討材料になるのではないか。

##### ● 橋本課長補佐（事務局）

- ・今年度の事業報告については、決算と合わせて次の協議会でご報告したい。平成22年度の事業がほぼ終わっているが、例年決算、事業報告は6月、7月に実施している。ただし、来年度の事業自体は4月1日から開始する必要があるため、各町の予算が議会にて議決されたところで、予算案を先にお諮りしたく、本日お集まりいただいた。
- ・今年度の実施状況については、本日全議案の審議が終わった後、その他としてご報告させていただきます。

##### ● 山崎副会長（滋賀大学）

- ・バス路線の大幅な改善が必要ということは理解できる。それに合わせてマップを作成・配布するということであるが、効果検証をしなければならないので、相当早い時期に実施すべきである。スケジュールはどのように考えているか。

##### ● 橋本課長補佐（事務局）

- ・バス路線の改善案については、関係者の皆様とご相談させていただき、6月に第1回協

議会を開催し、素案をお示しし、9月～10月の間に運行が開始できればと考えている。路線改編の許認可の問題があるのでこれ以上早くするのは難しい。

● 野村委員（近畿運輸局）

- ・ 通常の許認可業務よりは処理期間を短縮できるが、それなりの期間を要する。

● 野本副会長（聖泉大学）

- ・ 路線バスの利用促進に向けて様々な取組をされているが、目標に対する達成状況がかなり厳しい状況である。平均乗車密度が1を切っている路線もあり費用対効果の観点でも問題がある。補助金の額も相当の金額が投入されているので重点的に見直しをすることであるが、具体的にどうするか、もう少し説明が欲しい。路線バスと乗合タクシーの棲み分けについても考えているのか。

● 橋本課長補佐（事務局）

- ・ 路線バスにおける改善のご質問の点については、次の議案でご説明したい。

- ・ 議長よりその他質疑応答を求めたが声無く、議長より第2号議案について承認が宣言された。

(3) 第3号議案 平成23年度事業計画（案）について

第4号議案 平成23年度収支予算（案）について

第3号議案と第4号議案については、関連性があるので併せて審議する。

- ・ 事務局より第3号議案、第4号議案および平成22年度における取組状況について説明がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 野本副会長（聖泉大学）

- ・ 年間80万人、補助金1億2000万以下にする、との目標があるが、現状と大きな乖離がある。乗合いタクシーや乗合いバスなど、踏み込んだ実験を実施してはどうか。

● 吉田委員（多賀町老人クラブ連合会）

- ・ 乗合いタクシーを利用しているが、地元の停留所から多賀大社まで行って、多賀大社から市立病院までで片道1,500円で往復3,000円で病院に行ける。乗合なので買い物先などに自由に立ち寄れないなど、多少不便な面もあるが、素晴らしい事業であると感じているので、交通弱者へのPRが大切だと思う。

● 村西委員（豊郷町）

- ・ 交通事故の1/4以上が高齢者の犠牲者であるので、交通事故対策の観点からも、この乗合タクシーを促進していくうえで、圏域で連携して高齢者の免許証の自主返納を促すような取組にもつなげていくことをしていただきたい。

● 小泉委員（愛荘町）

- ・ エコスタンプ制度の仕組みについて、たくさんスタンプを集めるほど良い景品がもらえるという制度にしてはどうか。あるいは、どの時点で景品と交換するかを利用者が選択できるようにしてはどうか。
- ・ 乗合いタクシーを必要とする高齢者が「知らない」というケースが多い。広報や機関紙などで周知をしていただいているとは思いますが、本当に必要とすべき人は読まれていないと思うので、工夫して周知徹底すべきで、例えば老人会で説明会の場を設けるなど。
- ・ 月末に町内から回覧があるが、資料の数が多いので乗合いタクシーの情報があっても埋

もれてしまうのではないか。

● 橋本課長補佐（事務局）

- ・ ご提案いただいたエコスタンプ制度の仕組みは一つの方法だが、利用する人が少ないのが現状であり、今年度はハードルを下げた利用者を増やそうという考え方で実施した。今年度は試行的に実施したため、次年度に向けて、スタンプを増やしすぎて興味をもたれなくなる程度の折衷案を検討したい。
- ・ 周知方法としてニューズレターの費用も各事業に計上している。共生ビジョンの中でも利用者がニューズレターを見ないのでは、というご指摘もあった。ニューズレターと並行して各市町の広報資料を利用しPRしていきたい。新たな時刻表も全戸配布する予定であり、年間を通じてPRする機会はかなり多いと思う。みなさんのご意見を聞きながら、老人会などの場所で直接お話することや、そういった場所で配布されている広報誌に載せていただくようお願いするのも一つであり、検討していきたい。
- ・ 年間様々な資料がある中で、乗合タクシーだけの情報を配布するのは難しい面もあるので、ロコミなど、皆様のご協力を得ながら進めていきたい。

● 松田会長（彦根市副市長）

- ・ 公共交通の空白地帯だけではなく、市街地にも乗合タクシーを導入して欲しいという声もある。技術的に難しい面があるが、乗合タクシーの料金体系の見直しに対する意見もある。自動車の運転免許証の返納も進めていただきたいが、返納後の代替手段についても検討が必要である。

- ・ 議長よりその他質疑応答を求めたが声無く、挙手による承認を求めた結果、異議なく第3号議案および第4号議案について承認された。

（4）地域公共交通活性化・再生総合事業にかかる二次評価について

- ・ 事務局より平成22年度の二次評価について説明がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 吉田委員（多賀町老人クラブ連合会）

- ・ 愛のりタクシーのPRは高齢者、交通不便地域で重点的に進める必要がある。私も今は車を運転するが、不便地域に住んでいるので、車に乗れなくなると交通弱者になってしまう。
- ・ 停留所の位置など高齢者にとって非常にわかりにくい。

● 松田会長（彦根市副市長）

- ・ 愛のりタクシーは利用者からも評価の声があり、今後も利便性を高めていきたいと考える。一方の路線バスについてはアンケート結果を基に河瀬線を充実させたことは一定の評価はできるが、なお1億近くの赤字が出ており、解消に向けて対策を打つ必要がある。

● 山崎副会長（滋賀大学）

- ・ 資料4について、多くの市町は路線バスと乗合タクシーをクロスさせることで、赤字を解消しつつ、利用者の満足度を高めようとしている。一方で、湖東圏域では、路線バスと乗合タクシーの役割を完全に分けているがこれで目標を達成できるか疑問である。
- ・ 評価事項に記載されている利用者を増やして補助額を削減するという考え方に矛盾は

ないのか。

● 橋本課長補佐（事務局）

- ・ 利用者を増やして収入を上げながら経費を削減し補助金を削減するという考えは整合性はあると考えている。ただ、最新の利用状況を見ると厳しい状況である。ただ、最終年度は少しでも目標に近づくようにバス路線の改善を進めていきたい。
- ・ 計画を策定した20年度からバスの活性化が主目的であった。バスとタクシーが共倒れしないよう、まずは、バスを活性化し、バスがない地域には乗合いタクシーを導入していく、という考え方である。22年度の計画変更の際にもこの考え方を踏襲した。残り1年なのでこの方針で進めていきたいと考えている。

● 山崎副会長（滋賀大学）

- ・ 前回の1月の会議で路線を絞って改善し、広げていくというのも一つの考え方という意見を申し上げた。
- ・ 湖東圏域の考え方はユニークであるが、成果が上がっていない。他町では住民の満足度が向上し、交通不便地域が解消され、補助金も減っている。最後の1年はかなりの覚悟をもって進めなければならない。

● 橋本課長補佐（事務局）

- ・ 計画どおりに実施したので終わりということではなく、これまでの会議で思い切った改善が必要であるというご意見も踏まえ、今回利用者増が見込める1路線に集中して、てこ入れをするなど、改善を進めていきたいと考えている。

● 野本副会長（聖泉大学）

- ・ 赤字額が1億を超えている路線バスをどうするか、という議論の中で乗合タクシーの導入に至った背景がある。乗合タクシーは高齢化率が高い地域の公共交通の役割を担っており、免許返納後の代替手段ともなっている。資料6の別紙として、高齢者の交通事故の問題などをデータで示すことで、高齢化対策としての乗合タクシーの意義を強調できるのではないかと。

● 橋本課長補佐（事務局）

- ・ 資料6は参考資料として既に国からの評価を受けた結果をお示ししている。

● 近藤副会長（滋賀県立大学）

- ・ 事業評価について、抽象的な評価が多いが、具体的な評価が必要。例えば、バストク制度も567回利用があったということであるが、実際にどの程度バス利用者の増加に繋がったのか。
- ・ 路線毎の目標値を出すと分かりやすいのではないかと。
- ・ 滋賀県の温暖化防止条例によって事業者に対する義務も生じてくる。多賀の工業団地で従業員の通勤手段を見直す良い機会になる。具体的に何人の利用増が見込めるか等、細かい戦略が必要。さらに、次年度以降は、コンサルを入れない場合も想定して、誰がどう戦略をたてていくか、という仕組みづくりも必要。
- ・ 例えば、横断幕で「バスSOS」を掲げるとか、土日小学生無料、免許返納時無料回数券を配付するなど、1回でも利用してもらえるように、路線バス増客キャンペーンを考えるべき。
- ・ 湖東圏域での連携もそうですが、福祉課や商工課など他分野との連携も重要であり、ぜ

ひお願いしたい。教育部門との連携では小学生のバスの社会見学などもできる。

● 樋口委員（滋賀県バス協会）

- ・ 来年の事業にモビリティ・マネジメントが盛り込まれている。特定の企業にエコ通勤を推進していただくよう、市からも強力に呼びかけていただきたい。
- ・ 高齢者の免許書返上時の優遇措置についても協会内で議論している。
- ・ 企業の協力がボリュームとしては大きい。まずは、市をはじめとして公的機関の職員の方にエコ通勤を率先して実施していただきたい。

#### 4 その他

- ・ 事務局より参考資料に基づき、鉄道駅利用者を対象に実施した公共交通に関するアンケート調査結果及び乗合タクシーに関するアンケート調査結果の中間報告がなされた。

#### 5 閉会

以上